

【主な出来事】

- 10月3日、内閣不信任案が却下された。これをもって9月27日に提出された内閣責任法案7法案は採択。
- 10～11日、ロゴジン露副首相のキシニョフ及びトランスニストリア訪問。
- 親欧州派野党（「尊厳と真実」、「行動と連帯」及び自由民主党）は、大統領選統一候補をサンドウ「行動と連帯」党首に決定。右を受けてナスタッセ「尊厳と真実」党首は立候補を撤回。

1. 内政

大統領選（10月30日）に向けた動き

▼9月30日～、各候補は選挙運動を公式に開始。

- ・ルプ民主党党首:EU統合路線を強調。政府における汚職の調査・監視のための更なる措置を約した。
- ・ドドン社会党党首:国家性と中立性、正教信仰とロシア及びルーマニアとの友好、安定した経済が柱。いかなる統合にも反対するとした。
- ・ギンブ自由党党首:ルーマニアとの統一促進を強調し、「モルドバの独立は叶わぬ贅沢となった。ルーマニアとの統合を希望する」と発言。（5日、共産党は右発言が反憲法的であるとし、中央選管に対しギンブ候補の失格を訴え。）
- ・レアンカ欧州人民党党首:「我々は西へ向かって進む。モルドバにより繁栄を」がスローガン。自身はロシアのオリガルキーから独立であり、プーチン大統領とも交渉可能とした。
- ・チュバシェンコ「我らの党」候補:モルドバのプラホトニウク氏からの解放を訴えつつ、議会解散の必要性を強調。

▼6日、大統領候補12名が確定。その後11名に。

- ・中央選管は、既に登録済みの8名に加え以下4名を登録。
(1)グツ「右派」党候補。
(2)ラドゥ独立候補(Red Union Fenosa 元代表)。
(3)ギレツキ議員(元自由民主党)。
(4)ラグタ独立候補(市民活動家)。
- ・署名を提出していたタルレフ元首相、ミハイエス政治専門家らは登録されず。
- ・15日、ナスタッセ「尊厳と真実」(DA)党首は、「行動と連帯」(PAS)及び自由民主党との統一候補擁立を理由に自身の立候補を撤回。

▼サンドゥPAS党首・ナスタッセDA党首による統一候補擁立の動き。

- ・11日、DAは、ナスタッセDA党首を統一候補とし、サンドゥPAS党首は議会選挙後に首相に就任することを提案。
- ・12日、両党首及びチボタル自由民主党党首の協議の結果、サンドゥ党首が統一候補に決定した旨報じられたが、DA側は時期尚早とコメント。
- ・13日、サンドゥとナスタッセは共同ビデオメッセージを発出、プラホトニウク氏を批判。
- ・13日、アデナウアー財団による世論調査結果発表。大統領支持率は、ドドン(32.97%)、サンドゥ(14.34)、ナス

ッセ(12.96)、ルプ(12.49)の順。

- ・15日、ナスタッセは自身の立候補撤回を発表。

▼6日、NGO「Promo-LEX」は第3回モニタリング報告書発出。

- ・行政リソース濫用、贈物、不適切なPR活動や署名収集活動の増加を指摘すると共に、海外在住有権者のための在外投票所の増設を進言。また国家有権者登録データの信頼性の低さも指摘。

内閣不信任案を巡る動き

▼3日、内閣不信任案却下。

- ・9月27日の内閣責任法案の提出を受け、同日、野党37議員が内閣不信任決議を提案していた。
- ・10月3日朝、本件審議のための議会本会議がわずか3時間前に召集。与党議員は欠席を表明し、定足数不足のため不信任案は却下された。これにより内閣責任法案は採択されたと見なされ、4日、大統領による署名・公布。
- ・13日、社会党及び共産党は、再度フィリプ内閣不信任案提出を試みるも、カンドゥ議長が却下。両党議員は抗議のため議場退席。

10億ドル不正銀行送金事件関連

▼ショール・オルヘイ市長の動向。

- ・6日、中央選管は、ショール氏をポペンコ「ショール」党大統領候補の公式代理人として認定。右に伴い、ショール氏の弁護士らは同氏の自宅拘禁解除を求めている。

▼11日、21名のPACE議員による声明。

- ・10億ドルの不正銀行送金事件へのプラホトニウクの関与について証言する用意を表明した両ツォパ及びプラトンといった主要な証人たちは政治的迫害を受けているとして、プラトンがウクライナからモルドバに不法に移送され、非人間的な収監状況に置かれていると批判。

その他

▼モルドバ郵便のスクandal。

- ・14日、自由民主党は、同党が実施した非公式議会調査の結果、ステロイドやアンドロゲン等の医薬品の違法な大規模国際輸送(毎週30万ドル相当)へのモルドバ郵便の関与を発表。同時に、密輸関与の疑いによりフィリプ首相以下政府関係者を解任するよう勧告。

2. 外政

▼2～3日、コビャコフ・ペラルーシ首相の来訪。

・政府間経済協力・貿易員回会合開催。フィリプ首相はベラルーシを「優先的地域パートナー」と称した。

▼6日、ダッチ・セルビア外相の来訪。

・ガルブル副首相兼外相らと会談。

▼7日、フィリプ首相はポロシェンコ・ウクライナ大統領と会談(於:両国国境)

・EUの支援を得て、2018年までにパランカ村に合同国境警備チェックポイントを作ること、クチュルガン〜ペルヴォオイスク(トランスニストリア・ウクライナ境界)に合同チェックポイントを作ること合意。

▼8〜10日、アーリン・スウェーデン国会議長来訪。

・カンドゥ議長らと会談。スウェーデン側より、2016〜18年に450万ドル相当の対モルドバ議会支援を行うことを表明。

▼10〜11日、ロゴジン露副首相の来訪。

・カルムイク副首相兼経済相と会談。4年ぶりのモルドバ・ロシア政府間経済協力委員会を11月末にソチで開催し、2016〜17年貿易・経済協力行動計画に署名することに合意。
・11日、トランスニストリア訪問。ロシアの支援による学校開校式に出席。シェフチュク「ト」「大統領」、クラスノセルスキ「ト」議長も同席。ロゴジン副首相より、次回モルドバ・ロシア政府間経済協力委員会に「ト」代表を招待。
・同副首相は、「ト」「大統領」と「ト」議会の更なる対話と呼びかけ。(当館注:同副首相の今次訪問は、「大統領」と議長の間の対立を仲裁する目的であったと言われている。)

▼11日、ストルテンベルグNATO事務総長発言。

・ロシアが近隣国への武力行使を行っていることから、旧ソ連地域に於いて、トランスニストリアを抱えるモルドバが次の発火点になる可能性があるとした。

3. 経済

▼3〜7日、モルドバ・ビジネスウィーク開催。

▼2017年の電気料金。(5日付報道)

・2014〜15年のレイ安時代の赤字をカバーするため、2017〜20年の電力料金が値上げされることに。2017年は少なくとも13%の値上げが見込まれる。

▼5日、IMFによるモルドバ経済予測。

・経済成長予測につき、2016年は+0.5%から+2.0%に、2017年は+2.5%から+3%に引き上げ。5年間の中期予測は+3.8%で変わらず。
・予測インフレ率につき、2016年は9.8%から6.8%に、2017年は7.4%から4.4%に引き下げ。
・予測失業率は、2016年が4.7%、2017年が4.5%。

▼6日、世銀によるモルドバ経済予測。

・モルドバ経済の回復は脆くかつ緩やかである。
・2016年の経済成長率を2.2%、2017〜18年は2.8%〜3.3%と予測。
・貧困率は2017年に37.1%まで、2018年に33%まで減少する見込み。

▼6日、財務省は134.2億レイ相当の国債を発行。

・本件は3日に採択と見なされた政府責任法案の一つ。

・5日、カルムイク財務相は本件国債の発行につき、IMFの条件を満たすために不可欠であった、本件国債のコスト(利子支払い及び元本返済)は今後年間700〜800百万レイかかるが、ドナーからの融資解禁に伴い、より多くの資金が入ってくることが見込まれるとコメント。

▼6〜11日、アルマシュ財務相・カルムイク経済相らのワシントン訪問。

・IMF理事会出席のため。

経済協力

▼モルドバ鉄道近代化支援。

・3日、EIBは50百万ユーロの融資を発表。EUが5百万ユーロを無償供与し、EBRDが共同融資を行うもの。

▼モルドバ・ガスパイプライン支援。

・5日、ルーマニアは、ウンゲニ〜キシニョフ間ガスパイプラインの技術設計のための55万ユーロの無償支援を発表。右は2010年の無償支援合意(1億ユーロ)の一部であり、技術設計はルーマニア Transgaz 社が実施。

▼モルドバ緊急事態局への消防車23台の供与。

・オーストリアによる6百万ユーロの借款。

▼ハンガリーによる企業融資。(13日)

・ハンガリー政府は、同国企業との共同プロジェクトを行うモルドバ企業への6,153万ユーロのクレジットにつき決定。年率は2.5%以下。

4. トランスニストリア

▼12日、Meier-Klodt 独OSCE議長国特使がモルドバ及び「ト」を訪問。

・本年7回目。「1+1」会合開催予定を歓迎するとともに、結果志向の対話を慫慂。

▼13日、「1+1」会合開催。

・バラン・モルドバ副首相とイグナチエフ「ト」「外相」は5ヶ月ぶりに会談。「イ」「外相」は、ベルリン合意の履行がモルドバによってブロックされていると批判。

5. 各種統計

▼3日及び12日、世論調査結果(Intellect Group)。

・実施主体は民主党に近いといわれる。
・3日発表:大統領候補支持率は、ドドン(社会党党首(30.8%)), ナスタツェDA党首(12.2%), ルプ民主党党首(11.8%), サンドゥPAS党首(11.3%), レアンカ欧州人民党党首(6.9%), チュバシエンコ「我らの党」候補(4.6%), ギンプ自由党党首(2.6%)。
・12日発表:大統領選挙支持率は、ドドン(33.5%), ルプ(12.7%), ナスタツェ(12.1%), サンドゥ(11.5%), レアンカ(7%), チュバシエンコ(4.4%), ギンプ(1.4%), ポペンコ「ショール」党候補(1.1%), ラドゥ(0.4%), ギレツキ(0.3%)。また議会選挙支持率は、社会党(25.3%), 民主党(12.9%), PAS(12.4%), DA(10.4%), 我らの党(7.3%), 共産党(5.3%), 欧州人民党(2.8%), 自由党(1.4%)。

▼4日及び7日、世論調査結果(社会学者・人口統計学者連盟)。

- ・50%以上の市民が、選挙は改竄されると考えている。
- ・期限前議会選挙実施に賛成57%、反対31%。
- ・EU加盟賛成39%、ユーラシア関税同盟加盟賛成43%。
- ・大統領候補支持率は、ドドン(33.9%)、ナスタツセ(12.9)、ルプ(11.8)、サンドゥ(10.1)、レアンカ(6.8)、チュバシエンコ(3.8)、ギンプ(1)。
- ・議会選挙が行われた場合の支持率は、社会党(24)、「尊厳と真実」(10.1)、「行動と連帯」(8.9)、民主党(8)、我らの党(6.5)、共産党(4.6)、欧州人民党(4)、自由党(2.8)、自由民主党(1.3)。

▼5日、世論調査結果(国際共和党研究所)。

- ・大統領支持率:ドドン(30)、サンドゥ及びナスタツセ(各13)、ルプ(12)、ヴォローニン共産党党首(5)、レアンカ(3)、チュバシエンコ(3)、ギンプ(1)。

▼12日、世論調査結果発表(社会問題研究センター)。

- ・大統領支持率は、ドドン(28.5)、サンドゥ(15.9)、ルプ(12.5)、ナスタツセ(11.9)。
- ・議会選挙支持率は、社会党(25)、PAS(15.5)、民主党(12.4)、DA(9)、我らの党(6.2)。
- ・EU加盟賛成51%、ユーラシア経済同盟加盟賛成43%。・ルーマニアとの統合については、完全に支持12%、モルドバにとって有益22%。

(了)